

心のふるさと深島

元深島分校場主任

甲斐清 作

百年ぶりに深島漁場の所有権が島民のものになった。孤島は闇にとざされて眠っている。人家の燈火が二つ三つ点々と光っている。

その頃島の周辺には、各浦々から漁船の群が集って来て、いざり火焚いておかあかと、エンジンの音と舟子の歌声が入りまじって、賑やかに聞えて来る。

東の海の島かげに、アセチレン燈が凄しく闇に光りを放っている。これは深島の漁民が一本釣りをしている。何という奇怪な対照だろう。

深島漁場の富を附近浦々の漁民に奪われて、島民は何の悲憤も何の反感もない。それもその筈、幕末から今日まで島民には、漁業権がないみじめさからである。

清水、後藤西青年とこの情景を眺めていた私は、一日も早く島民を目覚まして、当然すぎる妥当であるべき、深島漁業権を獲得することこそ、島造りの根源であり、又出発点であると話した。

西青年は感激と決意をもち、速かに深島周辺の漁業権を獲得して、海の富を守らねばならぬと、島民の蒙を開き奮起を促した。引き續いて漁業権獲得の申請書を、県当局、所長、漁業協同組合に提出し、猛運動を展開した。必死なる申請書は間もなく認められた。

深島周辺の漁業権が、百年ぶりに島民の所有となった。ここに深島開発の基礎ができた。

松の苗木が島民や子供の手で。

暴風のたけの防風林と、魚付保安林をかねて、四方水の松の苗木が、島民や子供の協力で植樹された。

二十年後には、成育して、深島漁場の値うちが高くなることであろう。

分校舎の完成、運動場の竣工

分校舎と運動場の竣工は、長田町長の地教育推進の熱意と、島民の激ぐましい協同奉仕作業で完成された。職員住宅も旧校舎跡に落成された。これで教育者の安住が可能となった。

この校舎こそ、永遠に深島文化を發祥させる殿堂となるであろう。

深島開発十項目案が、着々実現の機運を迎えた。

清水五長や島民の協力とで、漁網の共同購入や、防波堤の建設等、開発十項目が着々実現の機運を迎えたことは喜ばしいことである。(昭和四十三年十月記)

(附) 深島小中学校の歴史

大正六年、南上小分校の分校として開校
昭和七年、高田、塚治、教育功労者として記念碑が建った

三十五年、県指定僻地教育研究発表会
三十四年、深島小、中学校として独立

(前記) 甲斐清作氏は昭和二十四・三十七年在任
前校長 赤林 正人
現校長 井上長兵衛

深島の開発

広域市町村圏観光診断書 一九七三 による

深島は蒲江の中心部から南方八料の海上に浮かぶ離島で、東西約一、二料、南北約一、五料、面積一、一平方料、人口九九八（四五年国勢要覧）である。その形は恰もヒヨウタンのように中央部が細くびれて、僅かの砂浜をもっている。

内部はシイ、カシ、タブやヨウ樹、ダンチクの繁る高原状の台地となつてゐる。島の周辺には白礁、白礁、松礁、ソーノ礁をはじめ多くの岩礁群があり、海岸から起立した断崖絶壁とともに豪快な景観をつくつてゐる。

また、この附近はカツオ、ブリ、イカ、イセエビなど魚介類の宝庫といわれ、磯釣りの名所となつてゐる。
(中略)

観光地としての深島の魅力はつぎの如く要約される。

- (1) 白礁や松礁地区の海底には、各種サンゴ類、海藻、熱帯魚類が数多く生息し、おたかも花園であること。
- (2) 松礁、白礁、兒託礁、立刈地区の岸礁群の景観美。
- (3) 島の沿岸は魚族の宝庫。

島の素朴な人情と、離島の美しい自然景観のなかで自然との接触を楽しみながら、健全な野外生活を楽しむことができる。

本島は最近になつて待望の電気の供給が、海底送電線を利用して行われることとなり、不便なつた島民の日常生活や文化、情報の摂取に革新的な効果をもたらすものと思われ、残念ながら水道は依然として、小学校分校の下方のため池の集水を利用した簡易水道に依存して

いる状態である。

島民の生活不便の解消と、健全な自然保養レクリエーション地域の造成のため、海底送水管を利用した、上下水道の整備は緊急かつ先導的な課題といえる。(下略)

深島の観光開発施設計画

目前

- (一) 施設の名称 深島黒潮の楽園
- (二) 施設の概要 海中公園、釣魚、舟遊を主体とした海洋観光の島としての施設
- (三) 主要施設
棧橋、歩道、園地、駐車場、車道、宿舎、自然植物園、運動広場、海中公園探勝施設、舟遊施設、釣魚施設
- (四) 事業費 八五七〇〇万円（国、県、市、其他）

めぐるせる青垣山の隅の上に芽出度く立
てり島の学び舎

ものすこきうなりの風の吹きききて白波高
くうちさわぐ見ゆ